

## 施設管理データを 効率的に活用するシステム について教えてください

# Answer

### 1. はじめに

令和元年10月1日に水道法の一部が改正され、水道の基盤強化を図る一環として、適切な資産管理の推進が規定されました。

そうした状況の中、水道用水供給事業を行う神奈川県内広域水道企業団では、施設の維持管理業務の効率化とアセットマネジメントの実践を目的として、施設管理システムを導入し、令和2年4月1日から運用を開始しています。

### 2. 施設管理システムの概要

施設管理システムは、水道施設の維持管理を適切に行うため、点検・工事・維持管理業務委託等の維持管理に関するデータをクラウドサーバーに蓄積し、これらデータから、施設の健全度（劣化度）評価・分析を行い、点検内容や周期の見直し、修繕・更新の計画作成等を行うものです。

施設の点検等は、施設台帳と管路の基本情報を備えたタブレット端末で行うことで、これまでの紙を主体とした業務から電子化された業務へと移行を図りました（図）。

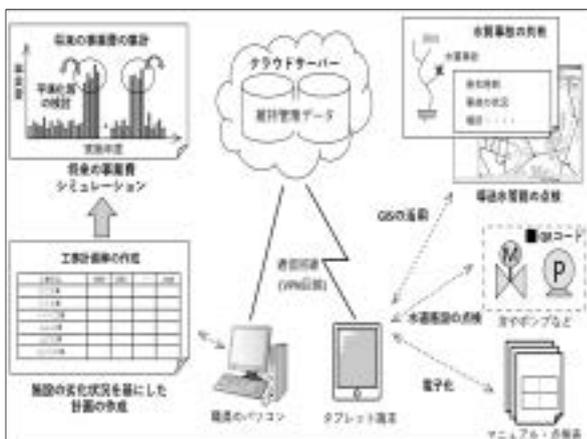


図 施設管理システムの概要

### 3. 現時点での導入効果

#### (1) ペーパーレス化

点検結果の記録、補修・修繕の記録、実施した工事内容の登録、水運用に影響のある点検業務に関する水運用を管理する部署への連絡・調整等を全てシステム内で実施しており、それらの決裁行為もシステムで電子決裁しているため、維持管理に関する一連の作業において、ペーパーレス化が図られました。

#### (2) 組織全体での情報共有の推進

全職員が個々に貸与されているPCにて施設管理システムへのログインが可能のため、点検・工事・維持管理業務委託の進捗状況や設備状態及び今後のスケジュールなどの最新情報について、全職員が確認することが可能となっています。また、タブレット端末にて設備の不具合箇所等の撮影ができ、本システムに登録することで、執務室はもとよりテレワーク中においても現場情報の共有を図ることが可能となり、情報共有の強化に繋がりました。

#### (3) 過去の点検データが現場で確認可能

点検時に、通常時と異なる状態の設備を発見した際も、現場で過去の点検や機器保全等の履歴を参照することが可能なため、素早く状況を把握することができ、より効率的に点検を行うことが可能となりました。

#### 4. おわりに

現在、令和4年度より2カ年かけて、施設管理システムのアセットマネジメント機能の拡張を行っています。これは現行システムに搭載されている施設の「健全度（劣化度）評価」機能に加え、施設の「重要度評価」を新たに設定し、これらを掛け合わせた総合的な評価の結果に基づいた事業の優先順位付け、事業の平準化を本システム上で自動的に実施することにより、事業計画の見直しを効率的に行うものです。

点検や委託の結果及び設置経過年数が健全度（劣化度）評価に適宜自動で反映されるため、最新の施設状態と施設の重要度に基づいたアセットマネジメントの実践により、ライフサイクルコスト（LCC）を低減し、総コストを抑制した投資が可能となることが期待できます。